

今年、清田区150年

今年2023年は、岩手県人長岡重治が明治6年(1873年)、今の清田小学校の校庭付近(清田1条4丁目)に最初に入植し、清田区地域の開拓を始めからちょうど150年の節目の年に当たります。

この記念すべき年に、「あしりべつ郷土館」に足を運んで、清田のまちを切り開き発展させてきた先人たちの苦労や足跡に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

清田開拓の祖ともいべき長岡重治は明治4年(1871年)、岩手県の募集移民44戸(185人)の1戸として月寒に入植。2年後の明治6年に厚別(あしりべつ)に移り住み、今の清田小学校付近一帯を適地とみて、大原始林の中で開墾を始めました。

長岡重治は開墾の傍ら、道路を造り、川に橋を架け、旅館や郵便の仕事をやリ、水田を造り稲作を始めました。地域の人と学校づくりにも尽力しました。

長岡重治と長岡家の功績を称える開拓功労碑が清田小学校校庭前に建っています。昭和22年(1947年)に地域の人たちが建てたもので、いつでも見ることができます。碑文は判読しづらいですが、あしりべつ郷土館には、この碑文を易しく解説したものが掲示さ

清田小学校前に建つ開拓功労碑



吉田用水跡=北野3条3丁目



吉田用水記念碑=厚別川左岸のコカ・コーラ裏

地域の歴史と先人たちの活躍に触れてみませんか

れています。機会があれば、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

明治25年(1892年)頃には、厚別川から取水した農業用水路「吉田用水」(延長約5km)が完成、北野から大谷地方面に水田が広がり、地域は農村として発展していきます。

昭和40年代になると、都市化の波が押し寄せ、水田がなくなり、吉田用水も役目を終えて大半が埋め立てられましたが、北野3条3丁目には長さ500mに渡って吉田用水跡が緑地帯として残っています。

また、コカ・コーラ裏手の厚別川左岸道路脇には吉田用水記念碑が建っています。記念碑や吉田用水跡を散策がてら訪ねてみてはいかがでしょうか。

清田150年のうち、明治30年代頃から農村時代が長く続きました。しかし、昭和40年代以降のこの50年間は都市化、宅地化の時代です。今や清田区は、札幌の緑豊かな住宅地として発展しています。1997年には豊平区から分区して清田区が誕生しました。清田区としての歴史も早いもので25年となりました。

動画「あしりべつ郷土館へ行こう」を制作 郷土館ホームページで視聴できます

あしりべつ郷土館は、郷土館の展示内容を紹介した動画「あしりべつ郷土館へ行こう」(長さ11分30秒)を制作しました。

あしりべつ郷土館のホームページで、だれでもいつでも視聴できるほか、DVDも制作しました。DVDは清田区内の小中学校や関係機関等に配布する予定です。

動画「あしりべつ郷土館へ行こう」は、北海道芸術高校声優コースの生徒2人が聞き役になって、郷土館ボランティアスタッフの了寛紀明さん(郷土史家、元小学校長)と田山修三さん(北海道文化財保護協会副理事長、元小学校長)の2人が、郷土館の展示

品や清田の歴史を分かりやすく解説します。

この動画は、郷土館ボランティアスタッフで、映像関係ではプロ級の腕前の園部真人さん(元小学校長)が企画、撮影、編集作業を行いました。

経費のかかる専門業者に頼まず、すべて自前で制作しました。



動画「あしりべつ郷土館へ行こう」のDVD

清田区の歴史あれこれ（4）

明治期 有明と真栄にあった 篠路屯田公有地と新琴似屯田公有地



1. 有明・真栄地域の「公有地」について

明治初期に「屯田兵」が、北海道の警備と開墾の任務に当たるために入植しました。

札幌には、琴似屯田・山鼻屯田・新琴似屯田・篠路屯田の4つの屯田兵村がありました。

現在の清田区有明地域は、昭和19年（1944年）以前は「公有地」と呼称されていました。それは、篠路兵村の公有地であったからです。また、近くには新琴似兵村の公有地もありました。「公有地」と言いますのは、各屯田兵村へ「1戸当たり1万5千坪＝約5ha×戸数」の面積が功績として与えられた土地の事です。

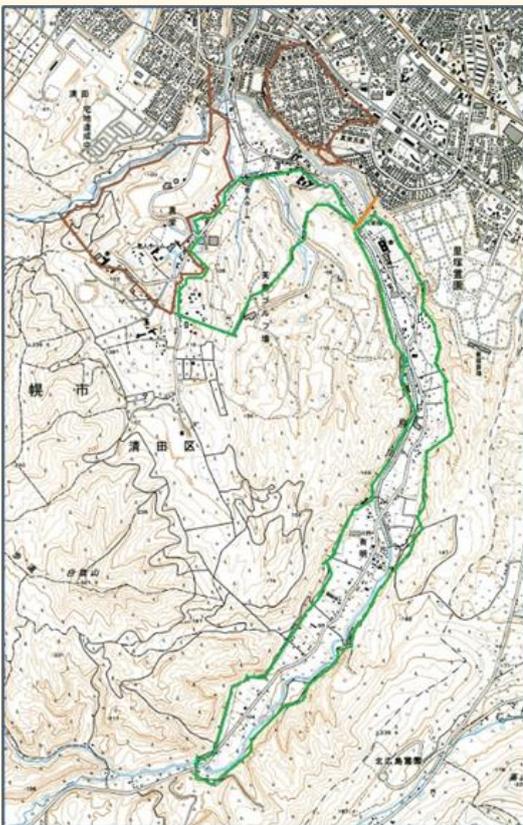
各「公有地」の内訳は次の通りです。

- 篠路兵村（屯田歩兵第一大隊第七中隊）の公有地は、明治22年（1889年）に付与され、面積は、80万8875坪（約266ha）ありました。
- 新琴似兵村（屯田歩兵第一大隊第六中隊）の公有地は、明治23年（1890年）に付与され、面積は、46万7647坪（約154ha）でした。

右図は、測量された2つの公有地の図面です。
（「屯田兵給与図二号」より）（北海道立文書館所蔵）



2. 「公有地」だった場所を今の地図に落とすと



左図の緑色線内2か所は、篠路屯田兵村の公有地で、茶色線内の2か所が、新琴似屯田兵村の公有地でした。

- **篠路屯田兵村の公有地**は、現在、有明地域と札幌芙蓉カントリー倶楽部のゴルフ場（有明）となっています。
- **新琴似屯田兵村の公有地**は、現在、ハイテクヒル真栄他と（定鉄）真栄団地となっています。

篠路屯田の公有地は、明治30年（1897年）頃より移住民が開墾を進めたのですが、篠路屯田の小村亀十郎翁が明治37年（1904年）より開拓を始め、私費で特別授業所（小学校）を設置し、道路、橋梁の改修、神社の新設等をして、小作人20戸を入地させました。その後、明治41年より「三瀧之澤」（現在の「ふれあいの森」周辺）を開墾し、大正5年（1916年）には40数戸を入植させ、子弟のため教育所の移転等の配慮を行いました。

しかし、伐木による洪水や、山間にあるため日照時間が短いことによる冷害等で離農者が続き、大正6年には、篠路屯田公有地（山林・原野・墾成地）を民間に売却し、入地者により今日に至っております。他の公有地の場所は、戦後になってから開墾が進められました。

（了寛 紀明）

厚別神社境内の「清田会館の跡」碑

郷土の発展に奮闘した厚別青年会の歴史が詰まる

清田区の厚別(あしりべつ)神社境内に「清田会館の跡」という小さな石碑があります。説明板もないので、「これは一体、何だろう」と思う人が多いかもしれません。ここにはかつて「清田会館」という集会施設の建物がありました。「清田会館の跡」はその記念碑です。

清田会館を建てたのは、あしりべつ(清田区)の青年たちでした。この小さな碑には、郷土の発展を願って頑張った青年たちの団結と奮闘の歴史が詰まっています。

清田会館は昭和45年(1970年)に厚別神社隣に建設されました。木造モルタル2階建て延べ330㎡の広さでした。当時、清田地区には集会施設はなく、この清田会館は地域住民にとっても歓迎されました。地域の集まり、町内会の会合、老人クラブ、各種サークル活動、葬儀などに活用され、地域の福祉や文化の向上、地域の発展に大きく寄与した施設でした。厚別神社例大祭の演芸大会の会場にもなったといいます。



厚別神社境内にある「清田会館の跡」碑

しかし、清田区の発展とともに清田区民センターはじめ地区会館、町内会館、葬儀場等が建ち、清田会館は老朽化も相まって、平成14年(2002年)に閉館、解体されました。「清田会館の跡」碑は、翌2003年に建立されました。

清田会館を建てたのは、大正3年(1914年)に発足し、昭和40年(1965年)に解散した厚別(あしりべつ)青年会です。清田会館の建設費は1500万円ほど。この資金は、厚別青年会が北野に持っていた土地(山林)を売却したお金でした。

厚別青年会は発足時の大正3年、郷土の将来のためにと、今の北野2条2丁目あたりにあった山林(霜踏山=当時)2.3ヘクタールを取得しました。

この「青年の山」の買入金は、青年たちが各自で月5銭貯金して積み立て、さらに山林の下草刈り作業で得た資金などで貯めたものでした。青年たちはカラマツ、桜、松を植樹。毎年、カラマツの下草刈りをして管理しました。



ありし日の清田会館

時代が過ぎて昭和30年代後半から都市化とともに農家が急速に減少し、青年会の会員も数名となり、厚別青年会は昭和40年(1965年)に解散しました。そして「青年の山」にも宅地化の波が押し寄せ、山を売却。青年たちは、このお金で清田会館を建設したのです。

厚別青年会は、労働・研修・奉仕・地域貢献の精神で、地域の様々な活動の推進役となって郷土の発展に尽くしました。厚別神社のお祭りでも、青年たちが頑張ってお祭りを盛り上げました。かつての青年たちの活動や思いが、この小さな「清田会館の碑」に詰まっているのだと思うと、感慨深いものがあります。(川島亨)



北野にあった青年の山



小学校5校が 郷土館で学習

令和4年度、「あしりべつ郷土館」で郷土の歴史学習をした小学校は5校にのぼりました。清田南小(昨年12月)、平岡中央小(今年2月)、有明小(今年3月)、北野小(今年3月)の3年児童があしりべつ郷土館を団体見学しました。

北野小4年児童は昨年10月、吉田用水跡を見学し今年3月、郷土館とインターネットで結び、吉田用水についてオンライン発表会を行いました。平岡公園小はコロナ感染防止のため、郷土館と学校をインターネットで結び、郷土館からオンライン授業を行いました(昨年9月)。

郷土史研究家の了寛紀明さん(元清田小校長)と北海道文化財保護協会副理事長の田山修三さん(元有明小校長)ら郷土館ボランティアが解説しました。



郷土館で学習する有明小の児童たち

区役所で 清田の歴史写真展

清田区役所1階ロビーで2月4日に開催された「きよた灯りカフェ」の会場で、あしりべつ郷土館は清田の歴史写真パネル展を実施しました。清田区が農村時代だった昭和30年代頃の風景写真と、昭和28年(1953年)に札幌-千歳間の国道36号線が北海道初の舗装道路となり、「弾丸道路」と呼ばれた頃の写真、計16枚を展示しました。

「灯りカフェ」は、区役所前広場と厚別(あしりべつ)神社にスノーキャンドルを灯し、区役所ロビーでコンサートを開催した清田地区の賑わい作りのイベントでした。



郷土館のパネル写真展
=2月4日、清田区役所

さっぽろ市民カレッジ 清田の歴史を巡る

札幌市生涯学習センター(ちえりあ)=西区宮の沢=主催の札幌市民カレッジ「さっぽろ10区めぐり-清田区編」が昨年10月5日、12日、19日の全3回行われました。

15名の市民が参加し、あしりべつ郷土館、厚別(あしりべつ)神社、清田小学校前の開拓功労碑、北野の吉田用水跡などを巡り、清田の歴史に思いを馳せました。

あしりべつ郷土館が全面協力し、講師を務めました。



厚別神社の宮司さんから話を聴く参加者=厚別神社



寄贈資料



以下の資料を寄贈していただきました。ありがとうございます。

- ・了寛紀明氏 清田発掘「吉田 善太郎の碑」ほか14点
- ・長岡俊宏氏 写真(長岡重治翁)2点
- ・田山修三氏 算盤(五玉算盤)
- ・清田東町町内会「創立40周年記念誌 40周年の歩み」
- ・つきさっぷ郷土資料館「つきさっぷ郷土資料館だより」第43号
- ・岩手県立博物館「岩手県立博物館だより」175号
- ・札幌国際大学「清田区の人々に学ぶ」
- ・アイヌ民族文化財団「アトウイ海と奏でるアイヌ文化」

利用案内

- 開館日 水曜日・土曜日
- 時間 10時~16時
- 入館料 無料
- 場所 札幌市清田区清田1条2丁目 5-3
清田区民センター2階
- 運営主体 清田区内の町内会連合会で作る運営委員会
(区民による自主運営)

アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m

郷土館ホームページ

<https://ashiribetsu-museum.com/>
郷土館のホームページ QRコード ⇒

